

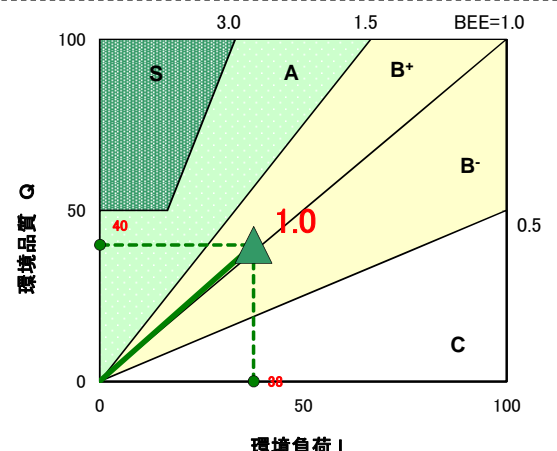



CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	光生病院	階数	地上4F		
建設地	熊本県人吉市下原田町字瓜生田字	構造	RC造		
用途地域	都市計画区域内、指定なし	平均居住人員	160 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,640 時間/年		
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2016年12月20日		
敷地面積	9,559 m ²	作成者			
建築面積	1,196 m ²	確認日	2016年12月21日		
延床面積	3,571 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)			
		BEE = 1.0	
		$\text{BEE (環境効率)} = \frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$	
ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)		排出率	
		91%	
環境効率評価基準		ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準	
ランク	ランク表示	評価	判定値
			BEE値
			Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満
C	★	劣る	0.5未満
			判定値 (排出率)
			ランク表示
			30%以下
			30%超60%以下
			60%超80%以下
			80%超100%以下
			100%超

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価		評価点	
		82	
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	92.8	熊本県重点評価基準	
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	65.0	判定値 (評価点)	ランク表示
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	77.5	100点以上	
【重点事項4】 循環型社会の実現	81.5	80点以上100点未満	
		60点以上80点未満	
		40点以上60点未満	
		40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》| 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	光生病院	階数	地上4F
建設地	熊本県人吉市下原田町字瓜生田字	構造	RC造
用途地域	都市計画区域内、指定なし	平均居住人員	160 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,640 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2016年12月20日
敷地面積	9,559 m ²	作成者	
建築面積	1,196 m ²	確認日	2016年12月21日
延床面積	3,571 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	91%
③上記+②以外の	91%
④上記+	91%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

音環境	2.8
温熱環境	1.7
光・視環境	3.4
空気質環境	3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

機能性	2.7
耐用性・信頼性	3.0
対応性・更新性	3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.8

生物環境	1.0
まちなみ・景観	2.0
地域性・アメニティ	2.5

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

建物外皮の熱負荷	4.0
自然エネルギー	4.0
設備システム効率化	4.0
効率的運用	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

水資源	3.4
非再生材料の使用削減	3.3
汚染物質回避	3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化への配慮	3.3
地域環境への配慮	3.0
周辺環境への配慮	3.2

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 **評価点 = 82**

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 **評価点 = 92.8**

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 **評価点 = 65.0**

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 **評価点 = 77.5**

重点事項4: 循環型社会の実現 **評価点 = 81.5**

重点事項の評価(レーダーチャート)

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・外壁色は既存建物に合わせ、一体感のある色彩計画とした。
- ・既存芝生広場や樹木など可能な限り残す配置計画とし、周囲の景観や環境に配慮した。

Q1 室内環境

- ・廊下に面して吹抜けを設け自然光や通風を積極的に取り込む計画。
- ・衛生機器や手摺など、患者が使いやすく安全なバリアフリーデザイン。
- ・F☆☆☆☆建材の使用。

Q2 サービス性能

- ・シンプルな動線計画として、患者にわかりやすく、効率的な平面計画。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・敷地内に緑地を設け、暑熱環境に配慮した。

LR1 エネルギー

- ・複層ガラスによる冷暖房負荷の低減。
- ・LED照明器具の採用。
- ・吹抜けによる自然採光、通風の活用。

LR2 資源・マテリアル

- ・断熱材はすべてノンフロン。

LR3 敷地外環境

- ・既存芝生広場や樹木など可能な限り残す配置計画。

その他

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.5
Q1 室内環境			0.40		-			2.7
1 音環境		2.6	0.15	3.1	1.00			2.8
1.1 騒音	【共用部】診察室: 40dB(A) 【住居部】病室: 35dB(A)	4.0	0.40	5.0	0.40			
1.2 遮音		2.2	0.40	2.4	0.40			
1 開口部遮音性能		1.0	0.40	1.0	0.30			
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20			
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20			
2 温熱環境		1.7	0.35	1.6	1.00			1.7
2.1 室温制御		2.5	0.50	2.2	0.50			
1 室温		1.0	0.38	1.0	0.57			
2 外皮性能	【共用部・住居部】外皮U:1.125 窓SC:0.503 U:2.67	4.0	0.25	4.0	0.43			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20			
2.3 空調方式		1.0	0.30	1.0	0.30			
3 光・視環境		3.3	0.25	3.6	1.00			3.4
3.1 屋光利用		4.2	0.30	4.2	0.30			
1 屋光率	【共用部】診察室: 9.4% 【住居部】病室205: 2.0%、病室211: 3.1%	5.0	0.60	5.0	0.60			
2 方位別開口		-	-	-	-			
3 屋光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	4.0	0.30			
1 屋光制御	【共用部】診察室: フラインド 【住居部】病室: フラインド	3.0	1.00	4.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25			
4 空気質環境		3.6	0.25	3.5	1.00			3.5
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の積極的な採用	4.0	1.00	4.0	1.00			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		2.0	0.30	2.6	0.38			
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能	【住居部】病室205: 0.07 > 0.067(1/15)、病室211: 0.07 > 0.067(1/15)	-	-	4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	1.0	0.33			
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-			
2 喫煙の制御		5.0	1.00	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.0
1 機能性		2.2	0.40	4.0	1.00			2.7
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60			
1 広さ・収納性	【住居部】病室(201)1床: 18.03㎡/床、病室(202)4床: 9.62㎡/床	-	-	5.0	1.00			
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.5	0.40			
1 広さ感・景観	【住居部】天井高(病室1床): 2.5m	-	-	4.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-			
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50			
1.3 維持管理		2.5	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30	-	-			3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			

2.4 信頼性			2.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.7	0.30	3.6	1.00	3.6
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	4.2	0.50	
1	階高のゆとり	【共用部・住居部】2階階高:3.9m	5.0	0.60	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	【共用部】比率:0.16 【住居部】比率:0.31	4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	構造部材・仕上げ材を傷めることなく、更新・修繕できる。	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	仕上げ材を傷めることなく、更新・修繕できる。	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	バックアップスペース計画あり(屋上西側空スペース)	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m :0.87	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用		光庭	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.89 住宅(専有部) 0.83	4.0	0.50	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI _m :0.89	4.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓、節水型機器	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上げ材が容易に分別可能、内装材と設備が錯綜しない	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ノンフロン断熱材	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		高効率設備、LED照明の採用	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.3	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.33	-	-	
3 交通負荷抑制		自転車置場・駐車スペースの確保、駐車場導入路への配慮	4.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		チェックリストの過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

建物名称 光生病院

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		82
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				92.8	0.40	37.12
Q1-2.1.2	外皮性能	4.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.3	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	4.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				65	0.20	13.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				77.5	0.20	15.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				81.5	0.20	16.30
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数